
閉会の挨拶

武田信照

〈愛知大学学長〉

最後の発言をとということですので、ごくごく手短かに閉会の挨拶をさせていただきます。3日間にわたって ICCS による最初の国際シンポジウムが開催されましたけれども、すでに何人かの方のご発言にございましたように、私は大いに成功したと評価しているのではないかと考えております。殊に、分野を異にする諸先生方が、分野を異にする各セッションに積極的にご参加をいただいて、議論に加わっていただいたことは、現代中国学の構築という観点から見て、大変意義の多いことではなかったかと思っているわけでございます。すでに加々美先生がおっしゃいましたように、そして今日の総括セッションのところでも明らかになりましたように、問題はなお多く残っており未解決であります。しかしながら、壇上での報告者および討論者の討論においても、あるいはフロアとのやり取りにおいても、まさに熱気溢れるというような表現で申し上げていいような、大変充実した論議が3日間にわたって行われたのではないかと感じているところでございます。今後、今回提起された諸問題についてさらに論議を深める機会が、これを契機に組織される国際的な研究会、および毎年1回予定されている国際シンポジウムにおいて、さらに深められていることを強く期待するものであります。壇上の方々およびご参加いただいた皆さん方のご協力に感謝申し上げます、閉会の挨拶にしたいと思います。どうもありがとうございました。